

バランス物語

(30 (安定型) / 50 (安定・成長型) / 70 (成長型))

追加型投信 / 内外 / 資産複合

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「バランス物語」は、2019年2月25日に第36期の決算を行いました。

各ファンドは、主にマザーファンドを通じて国内株式・国内債券・外国株式・外国債券の4つのアセット（資産）に投資し、基本アロケーションのもと、個別資産毎にアクティブ運用を行い、合成インデックスをベンチマークとして超過収益を積み上げることが図ります。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年8月28日～2019年2月25日

第36期		決算日：2019年2月25日
第36期末（2019年2月25日）		
		バランス物語30（安定型）
基準価額		12,147円
純資産総額		2,232百万円
第36期	騰落率	△1.7%
	分配金計	10円
		バランス物語50（安定・成長型）
基準価額		12,904円
純資産総額		1,162百万円
第36期	騰落率	△3.5%
	分配金計	20円
		バランス物語70（成長型）
基準価額		13,438円
純資産総額		649百万円
第36期	騰落率	△5.1%
	分配金計	30円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
(注2) △（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

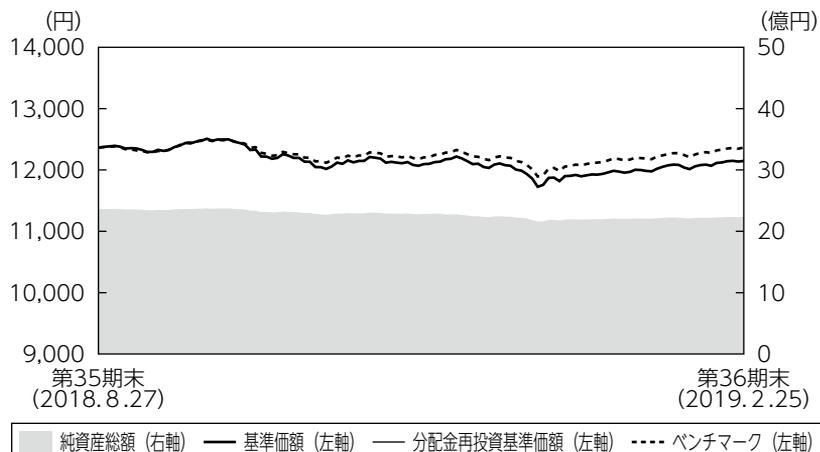
アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

バランス物語30 (安定型)

基準価額等の推移



第36期首： 12,366円
 第36期末： 12,147円
 (既払分配金10円)
 騰落率： △1.7%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（当社が独自に指数化する合成インデックス）は、期首の基準価額に合わせて指数化していません。なお、ベンチマークについては後掲の＜当ファンドのベンチマークについて＞をご参照ください。

基準価額の主な変動要因

基準価額は下落しました。株式市場の下落や世界的な景気減速懸念等を背景に主要国の金利が低下したことはプラスに寄与しました。一方、米中問題の激化懸念や世界的な景気減速懸念等を背景に国内外の株式が下落したこと等がマイナスに寄与しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
DL ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	△10.0%
DL ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	1.8%
DL インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	△3.7%
DL インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	0.5%

1 万口当たりの費用明細

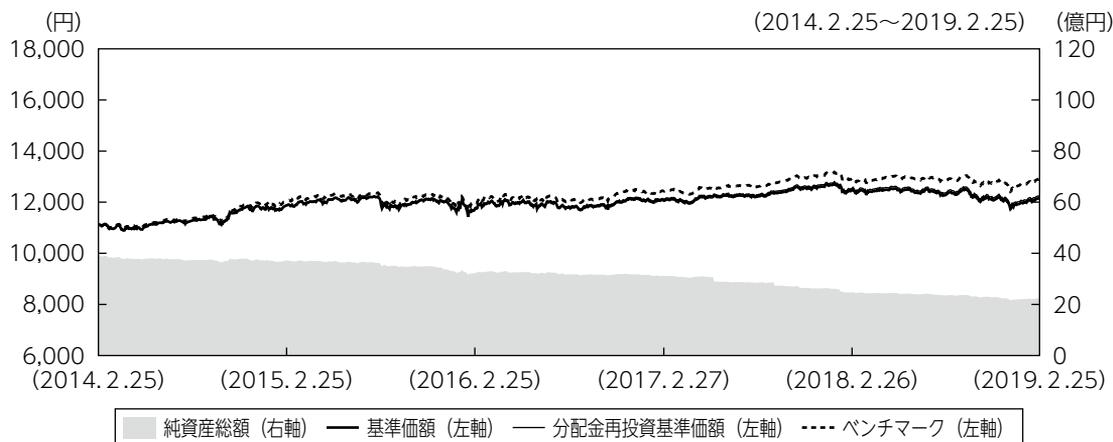
項目	第36期		項目の概要
	(2018年8月28日 ～2019年2月25日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	98円	0.808%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は12,145円です。
(投信会社)	(49)	(0.404)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(43)	(0.350)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	(7)	(0.054)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.007	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株式)	(1)	(0.007)	売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(株式)	(0)	(0.000)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	0	0.004	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.001)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	99	0.818	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

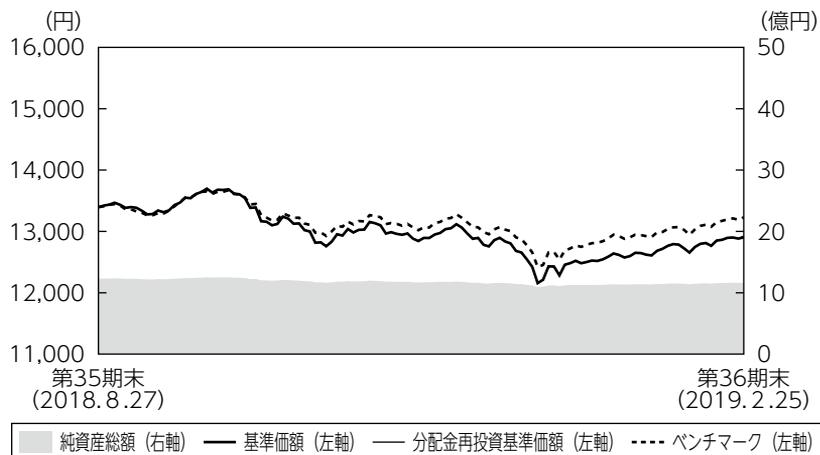
最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2014年2月25日の基準価額に合わせて指数化しています。

		2014年2月25日 期首	2015年2月25日 決算日	2016年2月25日 決算日	2017年2月27日 決算日	2018年2月26日 決算日	2019年2月25日 決算日
基準価額 (分配落)	(円)	11,143	11,872	11,737	12,059	12,462	12,147
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	6.7	△1.0	2.9	3.5	△2.4
ベンチマークの騰落率	(%)	—	8.3	△1.0	4.1	4.0	△0.1
純資産総額	(百万円)	3,912	3,712	3,231	3,107	2,469	2,232

基準価額等の推移



第36期首 : 13,395円
 第36期末 : 12,904円
 (既払分配金20円)
 騰落率 : △3.5%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（当社が独自に指数化する合成インデックス）は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。なお、ベンチマークについては後掲の〈当ファンドのベンチマークについて〉をご参照ください。

基準価額の主な変動要因

基準価額は下落しました。株式市場の下落や世界的な景気減速懸念等を背景に主要国の金利が低下したことはプラスに寄与しました。一方、米中問題の激化懸念や世界的な景気減速懸念等を背景に国内外の株式が下落したこと等がマイナスに寄与しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
D L ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	△10.0%
D L ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	1.8%
D L インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	△3.7%
D L インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	0.5%

1 万口当たりの費用明細

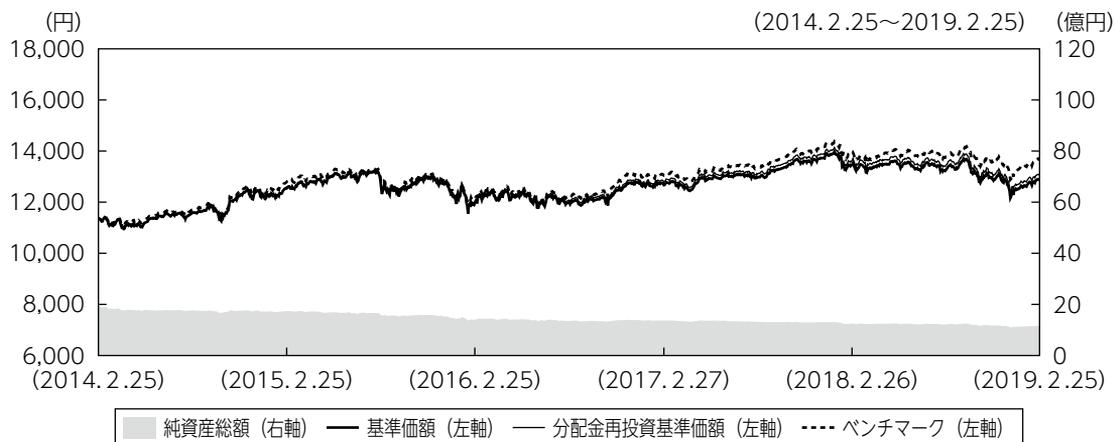
項目	第36期		項目の概要
	(2018年8月28日 ～2019年2月25日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	105円	0.808%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は12,974円です。
(投信会社)	(52)	(0.404)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(45)	(0.350)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	(7)	(0.054)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.011	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株式)	(1)	(0.011)	売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(株式)	(0)	(0.000)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	1	0.005	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.003)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	107	0.824	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近5年間の基準価額等の推移

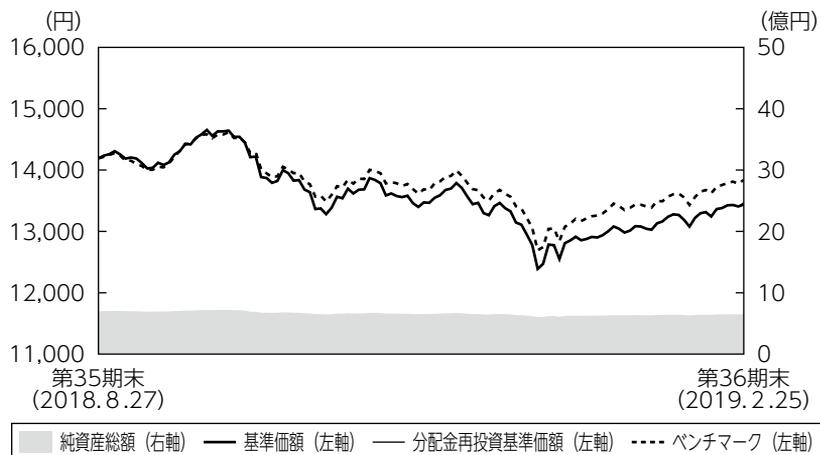


- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2014年2月25日の基準価額に合わせて指数化しています。

		2014年2月25日 期首	2015年2月25日 決算日	2016年2月25日 決算日	2017年2月27日 決算日	2018年2月26日 決算日	2019年2月25日 決算日
基準価額 (分配落)	(円)	11,386	12,540	11,965	12,666	13,459	12,904
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	40	40	40	40	40
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	10.5	△4.3	6.2	6.6	△3.8
ベンチマークの騰落率	(%)	—	12.4	△5.1	7.5	6.4	△1.1
純資産総額	(百万円)	1,899	1,731	1,408	1,361	1,248	1,162

バランス物語70 (成長型)

基準価額等の推移



第36期首 : 14,190円
 第36期末 : 13,438円
 (既払分配金30円)
 騰落率 : Δ 5.1%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（当社が独自に指数化する合成インデックス）は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。なお、ベンチマークについては後掲の<当ファンドのベンチマークについて>をご参照ください。

基準価額の主な変動要因

基準価額は下落しました。株式市場の下落や世界的な景気減速懸念等を背景に主要国の金利が低下したことはプラスに寄与しました。一方、米中問題の激化懸念や世界的な景気減速懸念等を背景に国内外の株式が下落したこと等がマイナスに寄与しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
D L ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	Δ 10.0%
D L ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	1.8%
D L インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	Δ 3.7%
D L インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	0.5%

1 万口当たりの費用明細

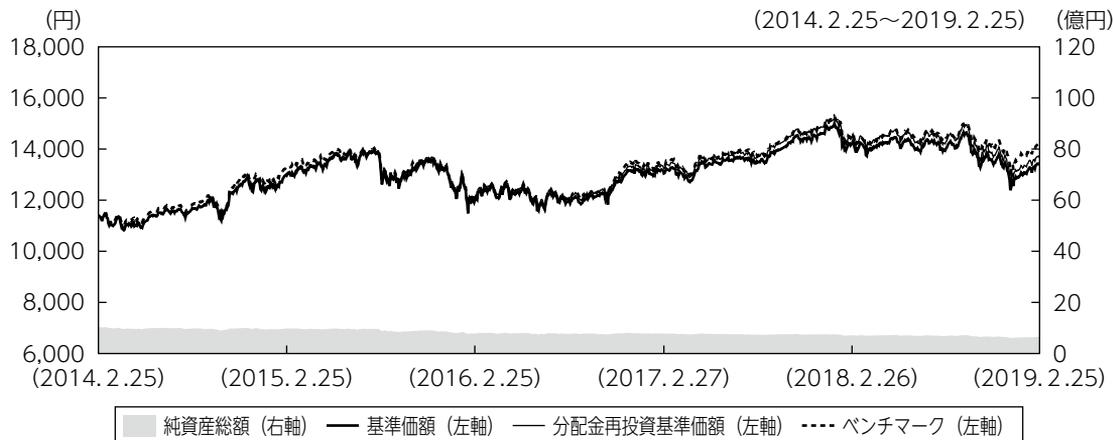
項目	第36期		項目の概要
	(2018年8月28日 ～2019年2月25日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	110円	0.808%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は13,582円です。
(投信会社)	(55)	(0.404)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(48)	(0.350)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	(7)	(0.054)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.015	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株式)	(2)	(0.015)	売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(株式)	(0)	(0.000)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	1	0.005	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.003)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	113	0.829	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2014年2月25日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年2月25日 期首	2015年2月25日 決算日	2016年2月25日 決算日	2017年2月27日 決算日	2018年2月26日 決算日	2019年2月25日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	11,418	12,958	11,987	13,045	14,210	13,438
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	60	60	60	60	60
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	14.0	△7.0	9.4	9.4	△5.0
ベンチマークの騰落率 (%)	—	16.4	△9.1	10.6	8.7	△2.1
純資産総額 (百万円)	1,033	975	783	773	713	649

投資環境

国内株式市場は、下落しました。米中貿易摩擦への警戒からレンジ内での揉み合いを続けた後、2018年末にかけては世界経済の減速リスクが意識され、下値を探る展開となりました。2019年1月以降は、中国の景気対策への期待やFOMC（米連邦公開市場委員会）での追加利上げに対する見方が後退したことなどから、期末に向けて戻り基調となりました。

国内債券市場では、長期金利（10年国債利回り）は、2018年10月上旬に米国長期金利の影響から一時0.15%まで上昇する場面もありましたが、その後は世界的な株式市場の大幅下落を背景に債券市場にリスクを回避する資金流入が継続し、低下基調に転じました。2019年1月にはFRB（米連邦準備理事会）が金融引き締めに対する慎重姿勢を示したことも影響し、2017年9月以来となるマイナス圏での推移が定着する展開となりました。

外国株式市場は、期初から2018年9月にかけては、米国の対中関税に対する悪材料出尽くし感や米中通商交渉に対する期待感などを背景に、米国の主要株価指数が最高値を更新するなど、上昇基調で推移しました。しかし、10月以降年末にかけては、好調な雇用統計を受け米国の金融引き締め継続の観測が強まったことや、世界景気に対する減速懸念が広がったことなどを背景に大きく下落しました。2019年1月から期末にかけては、過度な株価下落の反発や10-12月期の決算を受けて値を戻す展開となりました。

外国債券市場では、米国債利回りは、FRBが2018年9月に追加利上げを行い、その後も漸進的な利上げ姿勢を維持したことから上昇する場面がありました。しかし11月以降は、米中貿易摩擦激化への懸念から株式などリスク性資産が大きく下落したこと、景気減速を示唆する経済指標が散見されたことを背景に利回りは低下して期末を迎えました。ドイツ国債も、域内の景気減速懸念が強まったことなどを背景に利回りが低下しました。

ドル/円相場は、2018年12月半ばから1月上旬にリスク回避姿勢が強まり円高ドル安となったものの、その後はリスク回避姿勢が後退するに伴い円安ドル高となり、前期末比では概ね横ばいとなりました。ドル以外の主要通貨に対しては、世界的な景気先行きに対する不透明感等を背景にユーロや豪ドル等に対して円高となった一方、英国がEU（欧州連合）から離脱する懸念が後退したことを受け、英ポンドに対しては円安となりました。

ポートフォリオについて

各ファンドでは、各マザーファンドへの投資比率が以下の基本アロケーションからそれぞれ±5%以内の範囲で配分比率を抑えるよう運用を行いました。

<基本アロケーション>

バランス物語30 (安定型) :

国内株式：19% 国内債券：65% 外国株式：5% 外国債券：8% 短期金融資産：3%

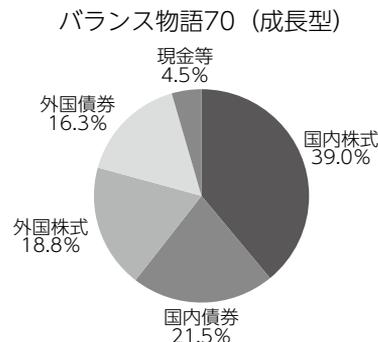
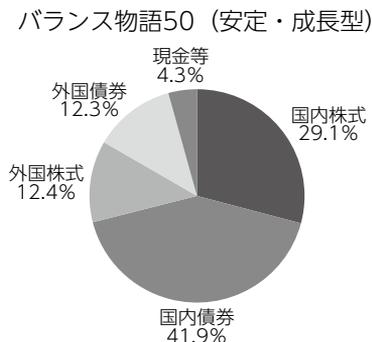
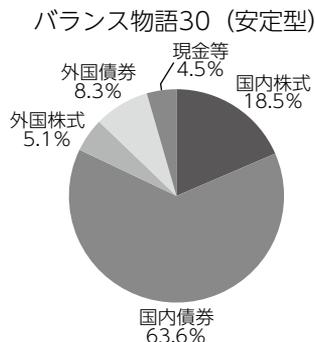
バランス物語50 (安定・成長型) :

国内株式：30% 国内債券：43% 外国株式：12% 外国債券：12% 短期金融資産：3%

バランス物語70 (成長型) :

国内株式：40% 国内債券：22% 外国株式：19% 外国債券：16% 短期金融資産：3%

決算日 (2019年2月25日) 現在の組入比率



●DL ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド

各業界において競争力の優れた高成長銘柄やバリュエーション面で割安な銘柄など、個別銘柄の選別投資に注力しました。企業のファンダメンタルズ分析に加えて、短期的・中長期的な視点で株価への織り込み度合いを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを継続的に行いました。その結果、医薬品、陸運業などの組入比率を引き上げた一方、サービス業、化学などの組入比率を引き下げました。

●DL ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド

ファンドにおけるデュレーション*戦略は、2018年11月までは短期化戦略を実施しましたが、内外株式市場の下落から金利低下圧力が強まる中、12月上旬より超長期ゾーンをオーバーウェイトとした長期化戦略を実施、維持しました。クレジット戦略ではリスク回避圧力が強まる中、高めの利回りが獲得できる事業債等の保有ウェイトを約7%程度減少させました(2019年1月末時点、2018年8月末比)。

*金利変動に対する債券価格の変動性。

●DL インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド

各国のマクロ経済分析等によるトップダウン・アプローチと企業調査活動を基にしたボトム・アップ・アプローチを併用しポートフォリオを構築しました。こうした中、業種別では生活必需品、資本財サービスセクターの組入比率を引き上げ、情報技術、金融セクターの比率を引き下げました。地域別では、大きな変更はありませんでした。

●DL インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド

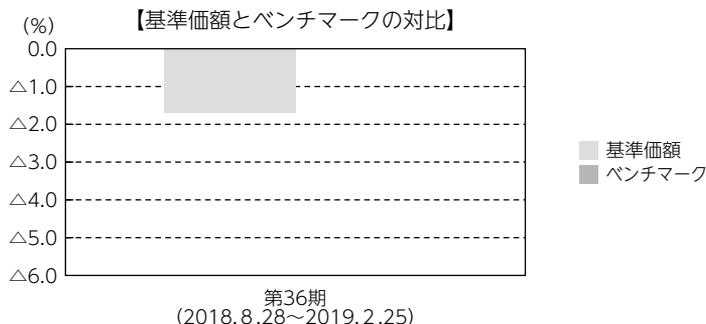
銘柄選択では、米中貿易摩擦が世界経済を下押しするとの想定や、中期的な米国景気の減速見通しから、米欧でデフレーションを長期化した戦略を維持しました。通貨選択では経常黒字等を背景としてユーロをオーバーウェイトした一方、世界的な金融緩和環境下で上昇してきた米ドルの調整を見込みアンダーウェイトとする戦略を維持しました。また、豪ドルの対米ドルのアンダーウェイト戦略を維持した一方、英ポンドの対米ドルアンダーウェイト戦略を解消しました。

バランス物語30 (安定型)

ベンチマークとの差異について

ベンチマークの騰落率は前期末比で0.0%となりました。

当ファンドはベンチマークを1.7%下回りました。国内外の株式を中心にベンチマークを下回ったことや信託報酬等がマイナスに寄与し、ベンチマークを下回る結果となりました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金 (税引前) 込みです。

分配金

当期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳 (1万口当たり)

項目	当期
	2018年8月28日 ～2019年2月25日
当期分配金 (税引前)	10円
対基準価額比率	0.08%
当期の収益	-1円
当期の収益以外	10円
翌期繰越分配対象額	2,603円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金 (税引前)」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金 (税引前)」の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

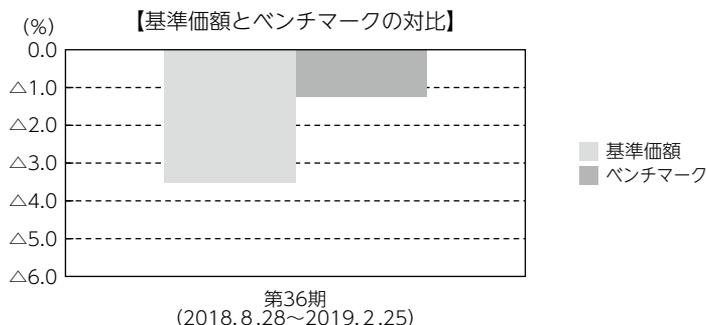
(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益 (含、評価益)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

バランス物語50（安定・成長型）

ベンチマークとの差異について

ベンチマークは前期末比で1.2%下落しました。

当ファンドはベンチマークを2.3%下回りました。国内外の株式を中心にベンチマークを下回ったことや信託報酬等がマイナスに寄与し、ベンチマークを下回る結果となりました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

分配金

当期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期
	2018年8月28日 ～2019年2月25日
当期分配金（税引前）	20円
対基準価額比率	0.15%
当期の収益	－円
当期の収益以外	20円
翌期繰越分配対象額	3,973円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

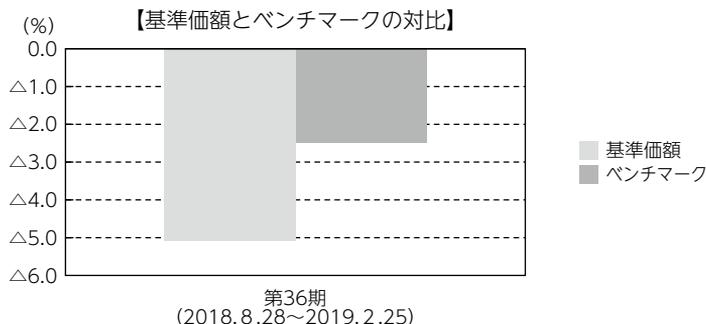
(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

バランス物語70 (成長型)

ベンチマークとの差異について

ベンチマークは前期末比で2.5%下落しました。

当ファンドはベンチマークを2.6%下回りました。国内外の株式を中心にベンチマークを下回ったことや信託報酬等がマイナスに寄与し、ベンチマークを下回る結果となりました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金 (税引前) 込みです。

分配金

当期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳 (1万口当たり)

項目	当期
	2018年8月28日 ~2019年2月25日
当期分配金 (税引前)	30円
対基準価額比率	0.22%
当期の収益	5円
当期の収益以外	24円
翌期繰越分配対象額	5,326円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金 (税引前)」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金 (税引前)」の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益 (含、評価益)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

各ファンドでは、基本アロケーションを基準とし、各資産の配分は基本アロケーションから±5%の範囲内に収まるよう必要に応じてリバランスを行います。

●DL ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド

世界的な貿易摩擦への警戒から株価の変動性が高まる可能性はありますが、株式市場は割安な株価バリュエーションが支えとなり底堅く推移すると考えています。銘柄選択の視点では、引き続き競争力の強さ等から中期成長性の高い銘柄、足元の業績が市場予想を上回ると予想される銘柄、P E R（株価収益率）等株価バリュエーションが割安な銘柄、株主還元に向きな銘柄等に投資します。また、組入比率については、高位を維持する方針です。

●DL ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド

世界的な景気減速懸念や国内の物価動向が低迷していること、利上げを続けてきたFRBの政策姿勢が転換したこと等を背景に、当面の長期金利は0%を挟んだレンジでの推移を予想しています。デュレーション戦略については、長期化戦略を主軸に、長期金利の想定レンジ内でのコントロールを継続する方針です。クレジット戦略については、銘柄選別を強化しつつ、高めの利回りが獲得できる事業債等を多めに保有する戦略を継続する方針です。

●DL インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド

今後の外国株式市場は、目先は米国をはじめとする主要各国の政治・金融政策動向に左右される不安定な相場環境を予想します。中長期的には、企業収益の増加とともに、個人所得環境も改善傾向を辿ることで、株式市場にとって良好な環境になると考えます。運用方針としては、積極的な企業調査活動を続けつつ、機動的な運用を実施します。株式組入比率については、高位を維持する方針です。

●DL インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド

米国では、景気減速を示唆する経済指標が散見される中、FRBが漸進的な利上げ姿勢を転換しており、当面の金利上昇余地は限定的と見ています。このことから銘柄選択については、米国での景気減速感の強まりとともに金利低下が進むことを想定し、デュレーションの長期化を軸にリスク量の調整を行う方針です。通貨選択については需給動向を勘案しながら機動的に戦略を構築する方針です。

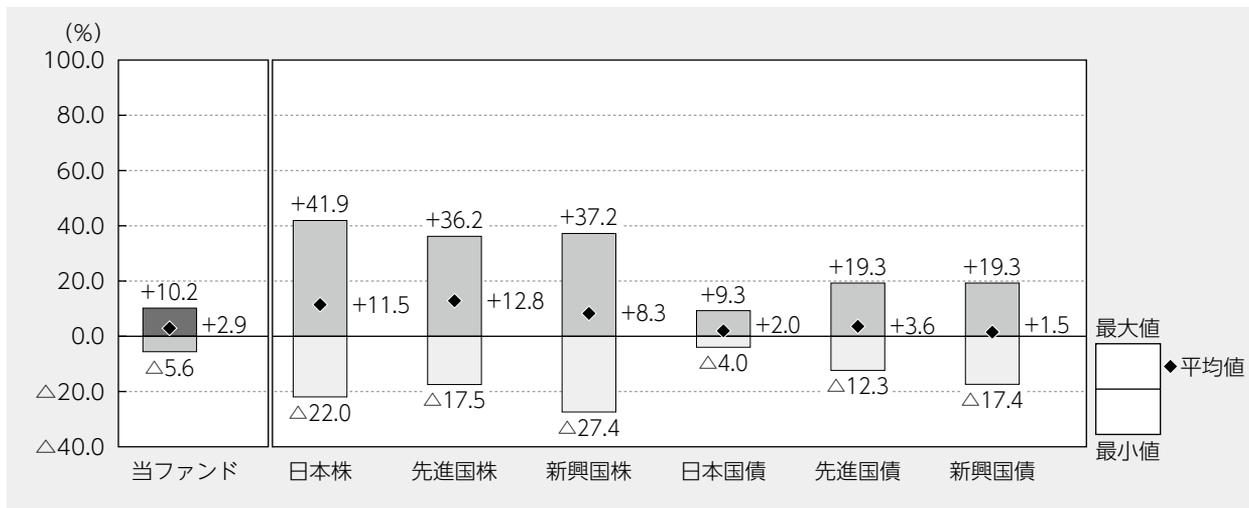
当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2000年12月27日から無期限です。	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の長期的な成長を図ることを目標として安定的な運用を行います。	
主要投資対象	ベビーファンド*	以下の各マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	DLジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	日本の株式（全上場銘柄）を主要投資対象とします。
	DLジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	日本の公社債を主要投資対象とします。
	DLインターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	日本を除く世界主要先進国の株式を主要投資対象とします。
	DLインターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	日本を除く世界主要国の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	<p>主としてマザーファンド受益証券への投資を通して、国内株式、国内債券、外国株式、外国債券に分散投資を行い、リスクの低減に努めつつ中長期的に安定した収益の積み上げをめざします。</p> <p>基本アロケーションのもと、個別資産毎におけるアクティブ運用を行い、委託会社が独自に指数化する合成インデックスをベンチマークとして超過収益を積み上げることを図ります。</p> <p>各資産につき、基本アロケーションにおける各資産毎の比率から±5%以内の範囲で配分比率の変動を抑えます。</p> <p>実質組入外貨建資産の為替リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。</p>	
分配方針	<p>決算日（原則として2月25日および8月25日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の利子、配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の中から基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないことがあります。</p>	

*ベビーファンドとは、バランス物語30（安定型）、バランス物語50（安定・成長型）、バランス物語70（成長型）です。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較

バランス物語30 (安定型)



2014年2月～2019年1月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

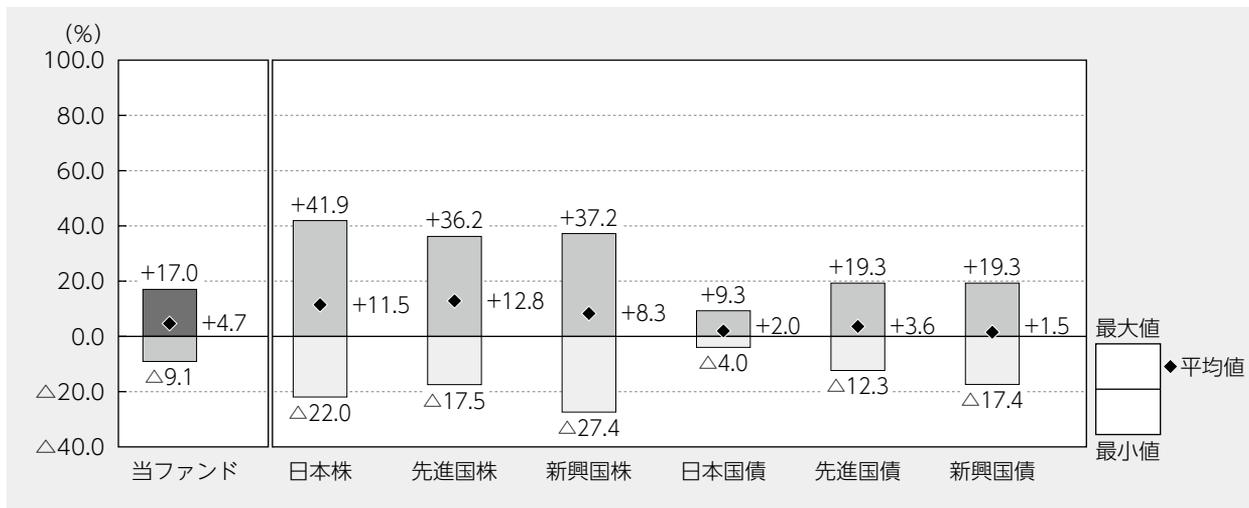
先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

バランス物語50 (安定・成長型)



2014年2月～2019年1月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

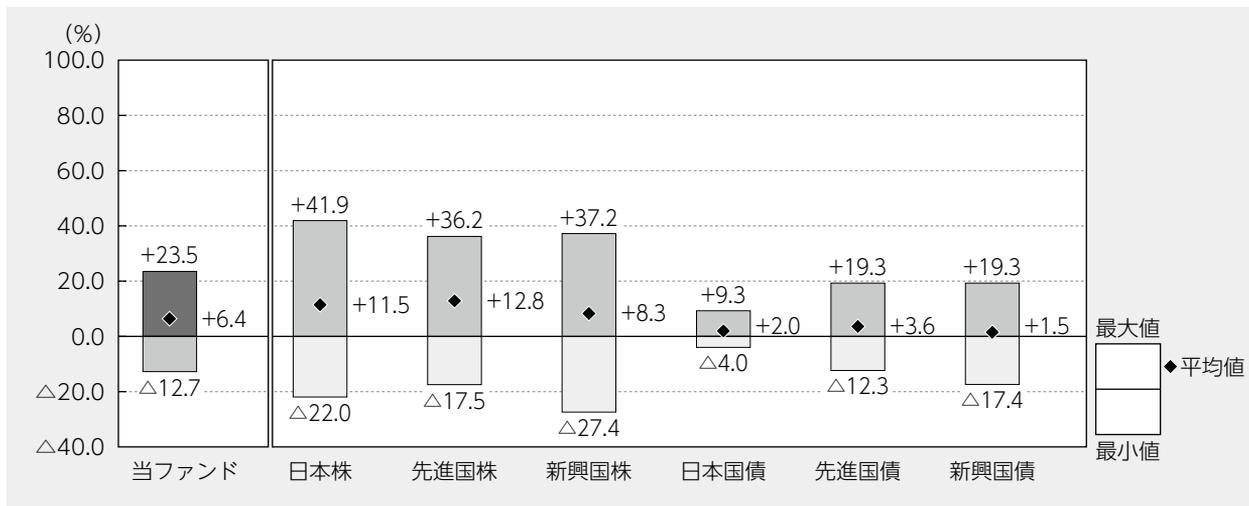
先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

*各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

バランス物語70 (成長型)



2014年2月～2019年1月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株……MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株……MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債……NOMURA-BPI国債

先進国債……FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債……JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

*各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2019年2月25日現在）

バランス物語30（安定型）

◆組入ファンド等

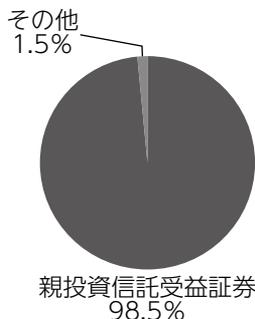
（組入ファンド数：4ファンド）

	当期末
	2019年2月25日
D L ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	65.9%
D L ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	18.9
D L インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	8.4
D L インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	5.3
その他	1.5

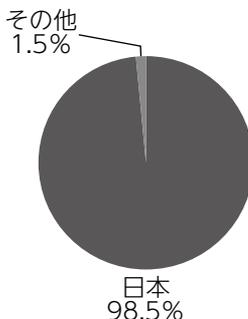
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

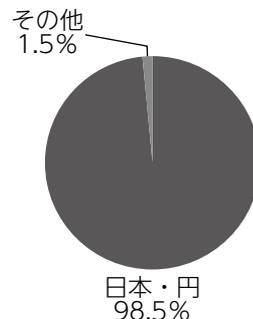
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

項目	当期末
	2019年2月25日
純資産総額	2,232,916,187円
受益権総口数	1,838,235,480口
1万口当たり基準価額	12,147円

（注）当期中における追加設定元本額は7,055,623円、同解約元本額は77,193,661円です。

組入ファンドの概要については、24ページ以降をご覧ください。

バランス物語50（安定・成長型）

◆組入ファンド等

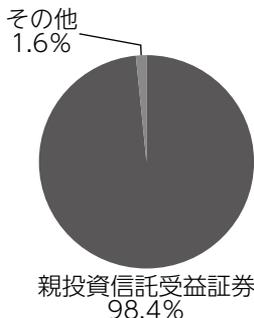
（組入ファンド数：4ファンド）

	当期末
	2019年2月25日
D L ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	43.4%
D L ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	29.7
D L インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	12.9
D L インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	12.5
その他	1.6

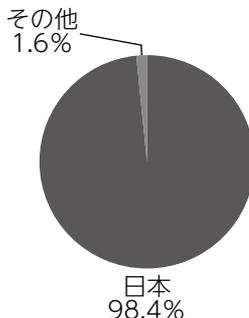
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

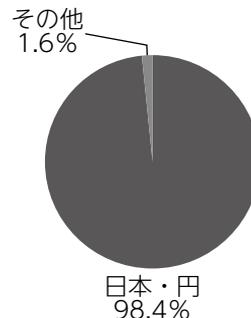
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

項目	当期末
	2019年2月25日
純資産総額	1,162,047,957円
受益権総口数	900,552,850口
1万口当たり基準価額	12,904円

（注）当期中における追加設定元本額は6,619,591円、同解約元本額は23,230,767円です。

組入ファンドの概要については、24ページ以降をご覧ください。

バランス物語70 (成長型)

◆組入ファンド等

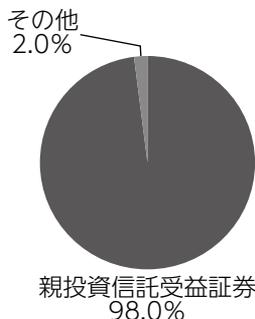
(組入ファンド数：4ファンド)

	当期末
	2019年2月25日
D L ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	39.8%
D L ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	22.3
D L インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	19.5
D L インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	16.4
その他	2.0

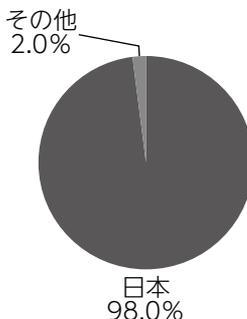
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

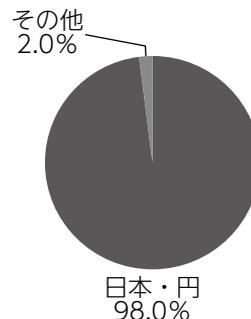
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

項目	当期末
	2019年2月25日
純資産総額	649,162,044円
受益権総口数	483,096,344口
1万口当たり基準価額	13,438円

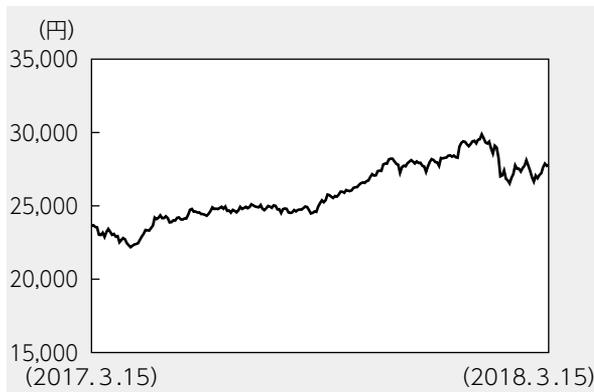
(注) 当期中における追加設定元本額は7,419,174円、同解約元本額は15,941,567円です。

組入ファンドの概要については、24ページ以降をご覧ください。

組入ファンドの概要

[D L ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド] (計算期間 2017年3月16日～2018年3月15日)

◆基準価額の推移



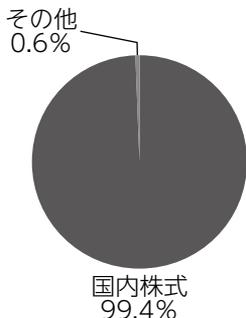
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
日本電産	日本・円	3.8%
三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本・円	3.0
アルプス電気	日本・円	2.9
ニトリホールディングス	日本・円	2.7
エムスリー	日本・円	2.7
日本電信電話	日本・円	2.7
三井住友フィナンシャルグループ	日本・円	2.7
日本M&Aセンター	日本・円	2.5
スズキ	日本・円	2.4
ソフトバンクグループ	日本・円	2.3
組入銘柄数	78銘柄	

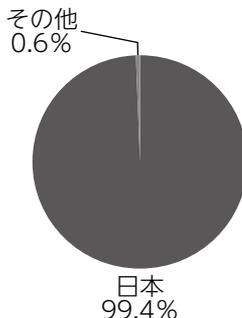
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	13円 (13)	0.048% (0.048)
合計	13	0.048

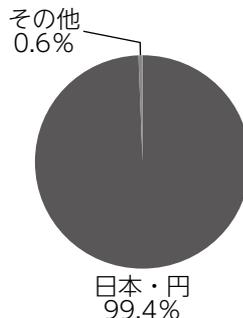
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(25,888円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

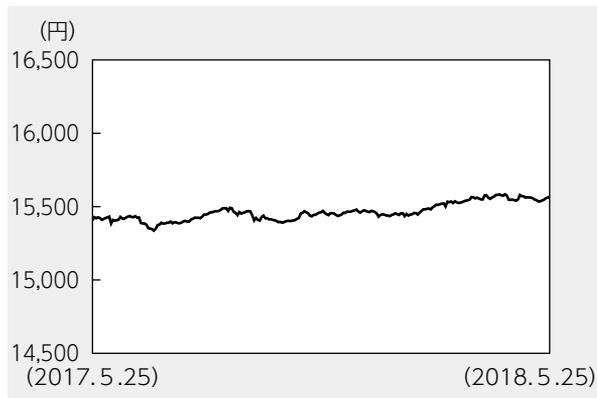
(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

【DLジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド】 (計算期間 2017年5月26日～2018年5月25日)

◆基準価額の推移



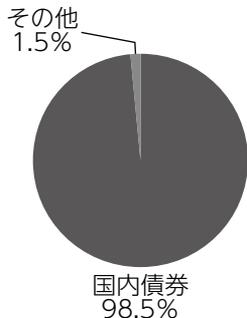
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
33回 利付国庫債券(30年)	日本・円	5.2%
339回 利付国庫債券(10年)	日本・円	4.1
153回 利付国庫債券(20年)	日本・円	3.9
151回 利付国庫債券(20年)	日本・円	3.3
10回 利付国庫債券(40年)	日本・円	2.4
158回 利付国庫債券(20年)	日本・円	2.2
349回 利付国庫債券(10年)	日本・円	2.1
145回 利付国庫債券(20年)	日本・円	1.8
4回 出光興産社債	日本・円	1.7
161回 利付国庫債券(20年)	日本・円	1.7
組入銘柄数	145銘柄	

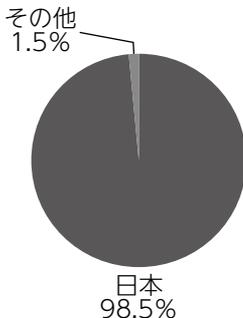
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	0円 (0)	0.001% (0.001)
合計	0	0.001

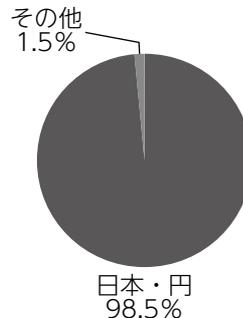
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(15,464円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

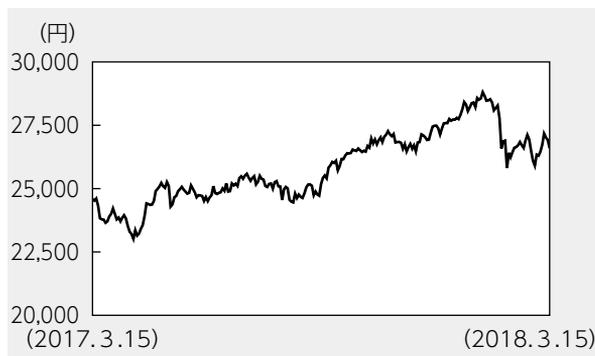
(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

【D L インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド】（計算期間 2017年3月16日～2018年3月15日）

◆基準価額の推移



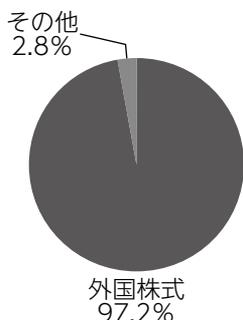
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
APPLE INC	アメリカ・ドル	3.9%
MICROSOFT CORP	アメリカ・ドル	3.7
ALPHABET INC-CL A	アメリカ・ドル	3.1
JOHNSON & JOHNSON	アメリカ・ドル	2.7
JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ・ドル	2.4
VISA INC	アメリカ・ドル	2.4
SUNTRUST BANKS INC	アメリカ・ドル	2.1
MORGAN STANLEY	アメリカ・ドル	2.0
CSX CORP	アメリカ・ドル	2.0
HOME DEPOT INC	アメリカ・ドル	1.9
組入銘柄数	152銘柄	

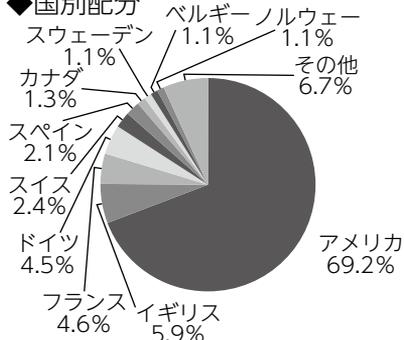
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	38円 (38)	0.147% (0.147)
(b) 有価証券取引税 (株式)	7 (7)	0.028 (0.028)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	12 (11) (0)	0.044 (0.044) (0.000)
合計	57	0.220

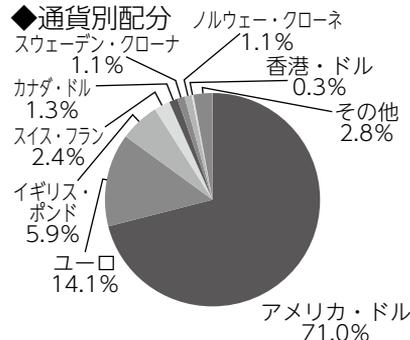
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(25,848円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

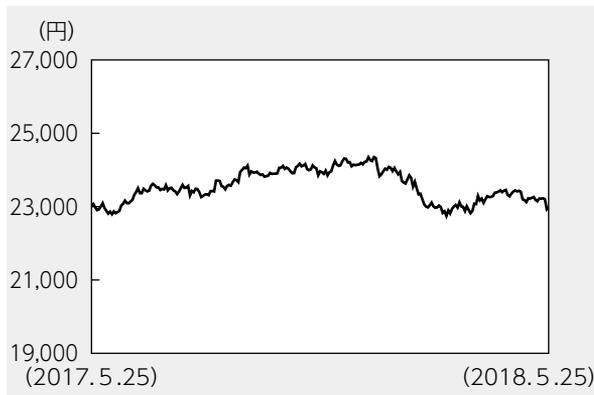
(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 国別配分は、発行国(地域)を表示しています。また、上位11位以下をその他に含めて集計しています。

(注7) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

[DLインターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド] (計算期間 2017年5月26日～2018年5月25日)

◆基準価額の推移



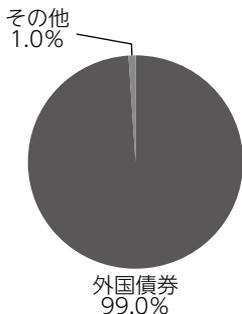
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
US T N/B 2.0 02/15/22	アメリカ・ドル	13.3%
ITALY BTPTS 5.5 09/01/22	ユーロ	3.9
US T N/B 1.5 08/15/26	アメリカ・ドル	3.8
US T N/B 1.125 08/31/21	アメリカ・ドル	3.2
US T N/B 2.25 11/15/27	アメリカ・ドル	3.0
ITALY BTPTS 2.5 12/01/24	ユーロ	2.9
BELGIUM 5.5 03/28/28	ユーロ	2.7
SWEDEN 3.5 03/30/39	スウェーデン・クローナ	2.4
SPAIN 1.6 04/30/25	ユーロ	2.3
SPAIN 1.45 10/31/27	ユーロ	2.1
組入銘柄数	98銘柄	

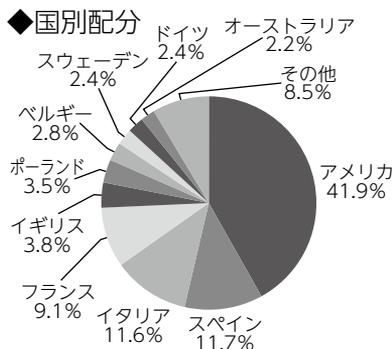
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用) (その他)	4円 (4) (0)	0.018% (0.018) (0.000)
合計	4	0.018

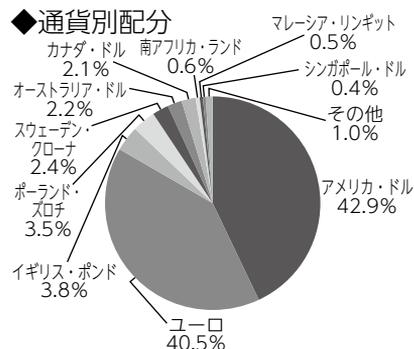
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(23,547円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 国別配分は、発行国(地域)を表示しています。また、上位11位以下をその他に含めて集計しています。

(注7) 通貨別配分は為替ヘッジ考慮前の割合です。為替ヘッジ考慮後の通貨別配分に関する詳細な情報等は、運用報告書(全体版)に記載されています。

(注8) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

<当ファンドのベンチマークについて>

- 合成インデックスとは、国内株式については東証株価指数（TOPIX）、国内債券についてはNOMURA-BPI総合、外国株式についてはMSCIコクサイ・インデックス（円換算ベース）、外国債券についてはFTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）、短期金融資産についてはコール・ローンのオーバーナイト物レートを、各ファンドにおける基本アロケーションに基づいて合成したものです。基本アロケーションについては、前掲の「ポートフォリオについて」をご参照ください。
- 東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXの商標に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、㈱東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、㈱東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。
- NOMURA-BPI総合の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

